

2025年1月18日(土)、マツダ財団が市民活動支援させていただいている「友楽タイム実行委員会」主催の「第18回マラソン大会」を見学しました。

朝は氷点下に迫る寒さの広島市東区の早稲田中学校グラウンドをメイン会場に、マラソン大会が開催されました。

「友楽タイム実行委員会」は地域住民の方の支援を得て、地域の小中学生の体験交流活動を活発に進められており、小学校や公民館などを会場に、卓球やバドミントン、焼き芋大会など毎月のように多彩なイベントを企画・運営されています。

マラソンのスタート前に、全員でストレッチをします。こうしたちょっとしたことがケガの予防につながります。小中学生、地域の方々が一緒にストレッチをする姿が印象的でした。



10時、スタートの号砲に合わせて、一斉にスタートしました。グラウンドを一周してから公道コースに飛び出していきます。

この頃は雲ひとつない快晴で、絶好のマラソン日和となりました。

今回のマラソン大会は、Aコース 1.5km、Bコース 3.0km で、早稲田中学校のグラウンドをスタートおよびゴールとした坂が多い住宅地を走り抜けるコースです。

コース途中の26か所に36名の方が配置され、誘導とコースの安全確保に当たられます。





ランナーの最後尾からは、救護用の車両が追走する万全の体制です。

あっという間に、グラウンドに戻ってくる部活動の猛者から、最後の上り坂を歩いて上るのが精いっぱいの小学生。更には、大号泣しながらお母さんに手を引かれてゴールする子まで、様々です。ゴールでは、みんなが拍手で迎えられていました。

今回は、早稲田小学校からジュニアリーダーを募集して企画運営にも当たってもらう、という取り組みでもあり、とても和やかで素敵な会だと感じました。



走り終えた小中学生、未就学の子たちは参加賞をもらって、帰路についていました。

今回のマラソン大会は、警察による道路規制もない中、公道を使ったイベントですから、地域の皆さんの全面的な協力がないと成り立ちません。

早稲田中学校の教頭 荒木先生も「地域コミュニティの崩壊が各地で危惧される中、こうした地域交流の場を長年に渡って維持されていることは素晴らしい」とおっしゃっていました。これだけの規模でのイベントなので、中学校が主体に企画・運営をされているのかと思いましたが、あくまで「友楽タイム実行委員会」をはじめとする地域の方々の企画・運営で、学校は場所などを提供するのみ、とのこと。学校と地域の連携もしっかり取れているところに感嘆させられました。

3日前に今後30年間の南海トラフ巨大地震発生確率が80%程度に引き上げられましたが、地域コミュニティの維持は、こうした災害に対する耐力を大きく左右するものです。僭越ながら、こうした取り組みが今後も長く継承されていくことを願っています。

(朝野)